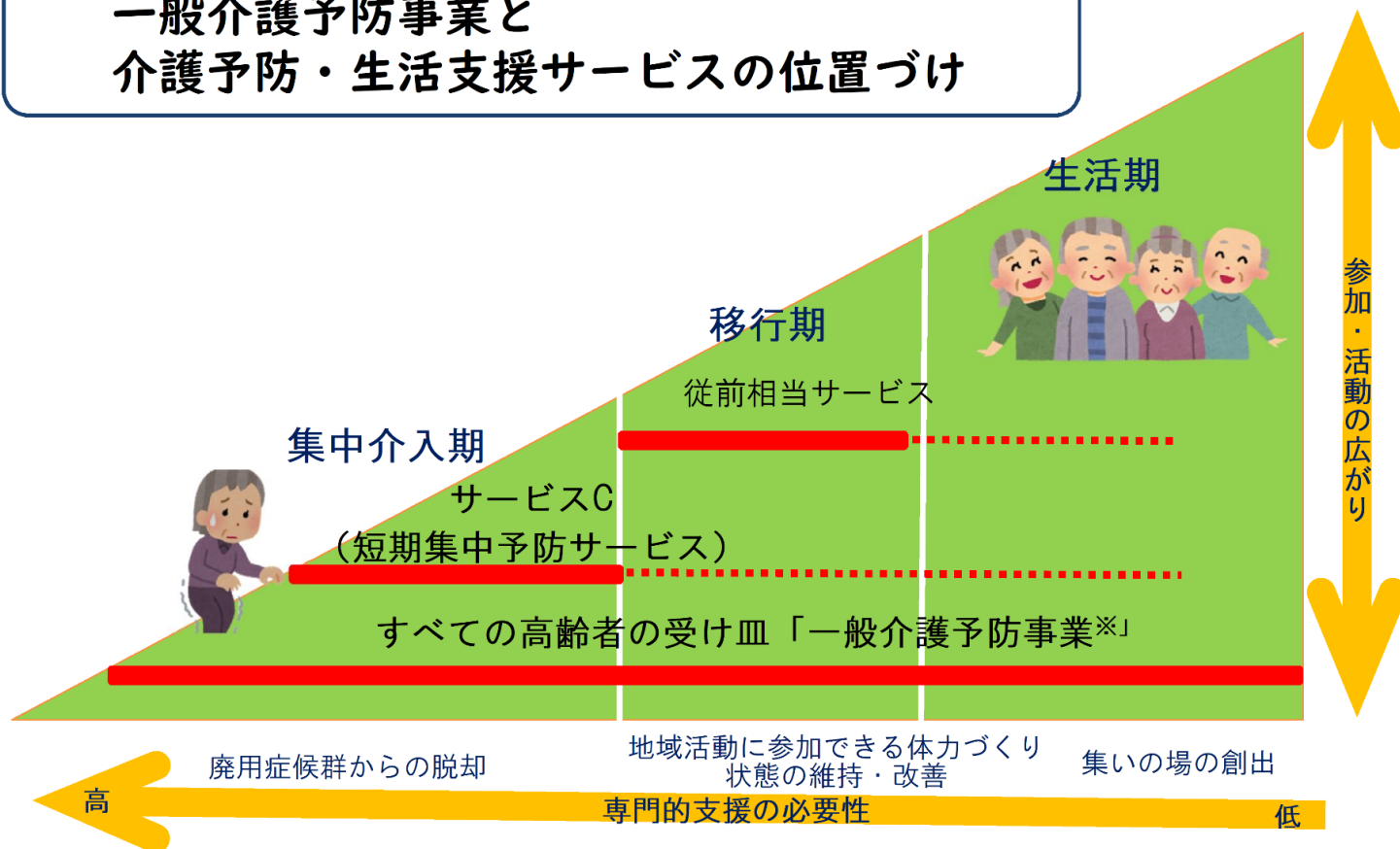


諫早市の介護予防・日常生活支援総合事業の枠組み

一般介護予防事業と 介護予防・生活支援サービスの位置づけ



※一般介護予防事業の主な事業

①介護予防(活動)把握事業 ②介護予防普及啓発・リーダー育成事業 ③地域介護予防活動支援事業 ④一般介護予防事業評価事業 ⑤地域リハビリテーション活動支援事業

介護予防・日常生活支援総合事業の課題と対策

目標

目的

介護予防が日常生活の中で習慣となり、地域に定着する

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられる
地域づくり

介護予防・
生活支援サービス事業

介護予防普及啓発・
リーダー育成事業

地域介護予防活動支援事業

要支援認定者
・事業対象者

全ての高齢者

期間限定・集中的
サービス・活動C

市内各地で毎月開催
介護予防教室

自主活動を応援
地域介護予防活動
支援

媒体の活用：介護予防のすゝめカード

受託事業所が少なく利用
の待機が発生

専門職不足で会場を増や
すことが難しい

指導者が必要と感じる
ものが多い

終了後、介護申請につな
がる割合が増加

教室終了後一人では続け
るのが難しい

内容がマンネリ化する
と意欲が低下する

サービス終了後一人では
続けるのが難しい

介護予防を広げる仕組みが必要

【今後の対応案】

- ・専門職の集中化（サービスCのみ）・サービス活動Cの複合化
- ・健康運動指導士・スポーツジム等の活用（介護予防教室）
- ・住民活動を支援するボランティア養成
- ・住民主体活動のためのカード以外の媒体導入

現状

課題

対応

【今後の対応案】

- ・ 専門職の集中化（サービスCのみ）
- ・ サービス活動Cの複合化
- ・ 健康運動指導士・スポーツジム等の活用（介護予防教室）
- ・ 住民活動を支援するボランティア養成
- ・ 住民主体活動のためのカード以外の媒体導入

【フレイル予防教室の現状】

従事者：専門職（理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士）

会 場：市内20箇所（公的公民館・自治公民館）

【対応案】

従事者：従事者の範囲を拡大

（例）健康運動指導士（スポーツジム等の指導者）

会 場：市内スポーツジム等を追加

【見込まれる効果】

○サービス・活動Cに専門職を集中化でき、サービス・活動C待機者が減少する

○フレイル予防教室の会場が増え、より通いやすい環境整備ができる

意見交換

介護予防が日常生活の中で習慣となり、地域に定着していくために、以下の3点を踏まえ、身近な場所で教室を開催し、参加者を増やしたい。

検討中の対応案の他に何かアイデアはないか？

- ①フレイル予防の正しい知識を普及する
- ②安全に教室が運営できる
- ③教室終了後もフレイル予防を継続化できる